

疑念を表す“既然 p, 就 q”文¹⁾について

王 芸 嬛

1. はじめに

中国語における推論因果複文“既然 p, 就 q”（以下、“既然”文と略す）を、同じ因果複文に属する説明因果複文“因为 p, 所以 q”（以下、“因为”文と略す）と区別する際に、①“既然”文の p 節（原因節）は既知情報を表し、“因为”文の p 節は既知または未知情報を表す、②“既然”文の p 節は前提であり、“因为”文の p 節は文の前提とは限らない²⁾ など、“既然”文の p 節が既知及び会話双方の共有情報であることを主張する先行研究が多くみられる。(1)~(3)はその例である。

- (1) 久而久之，城墙上就被刮出了好多白斑，好像脸上长了癣。我不明白，既然一堵墙已经修了出来，为什么不能让它好好呆着。(BCC³⁾：王小波《青铜时代》)
- (2) 他自己住两房两厅，全套的泰国红木家具，可是因为缺乏情调，整个家显得硬邦邦的。(郭继慈 2008：p.23)
- (3) 梦莲姑娘永远不抹口红，不烫发，不擦胭脂，不穿鲜艳的衣服。因为她素丽，所以有时候倒愿意看别人的身上穿着大红大绿。(郭继慈 2008：p.23)

しかし、黄文龙 1998、邢福义 2001などは、(4)と(5)のような反例を指摘している。

- (4) 我常常自问：既然爸爸是“坏蛋”，那么，什么样的人才是好人呢？(邢福义 2001：p.506)
- (5) 只这“无所恨”真是怪，真是怪！……既无所恨，为什么要索索地抖，泪

水直洵呢？（黄文龙 1998：p.87）

(4)のp節である“爸爸是‘坏蛋’”と(5)のp節である“无所恨”は文の意味や文脈から判断すると、会話双方の共有情報でなく、話し手にとって疑念を抱くまたは否定したい情報であることがわかる。

本論文は、(4)と(5)のようなp節に対する疑念を表す“既然”文を「疑念を表す“既然”文」と呼び、pに対する疑念を表さない“既然”文（一般“既然”文と称する）及び“因为”文と比較しながら、構文の特徴を分析する。そして、疑念を表す“既然”文の特徴は、①pの真実性だけでなく、pの真実性を認めながらその妥当性に対する疑念または否定を表すこともできる、②qは話し手が聞き手にとって不利な状況を作るために提出するものである、③話し手と聞き手の理解のずれによって文の曖昧性が生じることがあると指摘する。

第2章では先行研究をまとめた上で問題点を提示し、第3章では一般“既然”文と比較しながら疑念を表す“既然”文の特徴に関する分析を行い、第4章では“因为”文との区別について触れる。

2. 先行研究及び問題点

本章では、疑念を表す“既然”文に関する先行研究を考察し、問題点を提示する。

2.1. 疑念を表す“既然”文に関する先行研究

疑念を表す“既然”文に関する研究は管見の限り少ないが、このような“既然”文を“质疑性推断（疑念を表す推論）”と名付けているものに邢福义 2001がある⁴⁾。邢福义 2001は“既然”文を“断果句（結果を推定する文）”（例(6)）と“断因句（原因を推定する文）”（例(7)）に分けているが、どちらもpはすでに発生した既知の事実であり、qはpに基づいた推論である。

(6) 既然奖金这么多，报名的人一定不少。（邢福义 2001：p.358）

(7) 既然报名的人这么多，奖金一定不少。（邢福义 2001：p.358）

しかし、(4)または以下の(8)のような“反证疑据（疑われる原因・根拠が成立

しないことを反証する)”⁵⁾を表す例も提示されている。このような例では、pは既知の事実を表しているように見えるが、実際にはpに対する疑念或いは否定を表す。

(8) 我惊愕地望着她：既然这几年她真的有了属于她的星座，她为什么不拒绝调来这个农场呢？（邢福义 2001：p.506）

邢福义 2001では、(8)のような“既然”文を“质疑性推断（疑念を表す推論）”と呼び、以下のように説明している。

姑且容认某个说法、某种情况为事实，通过推论对其真实性表示怀疑甚至否定。

〔ある見解またはある状況をとりあえず事実として認め、そして推論を通して真実性に対する疑念ひいては否定を表す。〕（邢福义 2001：p.506 拙訳）

黄文龙 1998も、(5)と以下の(9)を例として、pの内容がすべて既知であることに反論している。

(9) 既然是商品，为什么没有商标？技术部门初步研究了一下，他们的意见认为不像是西方国家的民用商品。（黄文龙 1998：p.87）

徐阳春 2002も同じ観点を持っている。⁶⁾

黄文龙 1998は、疑念を表す“既然”文と“因为”文及び仮定複文“如果p, 就q”（以下、“如果”文と略す）の区別及び交替性についても述べている。

① “因为”文との区別（黄文龙 1998：p.88）

疑念を表す“既然”文の場合、qは疑問文あるいは否定文であることが多く、qの内容はpの内容と正反対であることまたは常識外れの内容であることがよく見られる一方、“因为”文の場合、qはほとんどが陳述文であり、qの内容は決してpの内容と正反対であることがない。

② “如果”文との交替性（黄文龙 1998：p.89）

疑念を表す“既然”文の“既然”を“如果”に言い換えても、意味はほとんど変わらない。例えば(10)の“既然”を“如果”に置き換えても、文は成立し、“那个人可能不是徐邦呈的领导人（あの人は徐邦呈の上司ではないかも）”というpを疑う意味もほとんど変わらない。

- (10) 从间谍工作的常识看，接头时，应当由身份高的一方处于主动地位，以便能视现场情况自由进退。既然/如果去接头的那个人是徐邦呈的领导人，为什么要安排那个人持有识别标志呢？这样，被领导者岂不是比领导者更安全了吗？（黄文龙 1998：p.89）

2.2. 先行研究における問題点

本節では、上述の先行研究から発見した疑念を表す“既然”文に関する以下の二つの問題点について論じたい。

I. 疑念を表す“既然”文と一般“既然”文の区別について

疑念を表す“既然”文は構文上、明確な特徴を持っていないため、文脈がなければ一般“既然”文と区別しにくい例が散見される。(11)はその例である。文脈がなければ、pの内容である“既然你有这么多优势（あれだけの強みを持っている）”に対する疑念または否定を表すと判断されやすいが、文脈である“就是你当年发表出来了……也足以把它抵消得干干净净嘛！（当時発表されたとしても、…プラス・マイナスで帳消しになりそうなものだ）”から、pである“你有优势（聞き手が強みを持っている）”に対する疑念や否定でなく、qである“不必在乎诗稿（詩の原稿に拘らなくてもいい）”を宣言したいという話し手の真意は明らかになっている。その例を(12)のように文脈を変えると、疑念を表す“既然”文にもなれる。

- (11) 韩一潭冷笑着说：既然你有这么多的优势，又何必在乎几首没有发表出来的诗稿呢？就是你当年发表出来了，你这么多的优势，也足以把它抵消得干干净净嘛！（日中：《钟鼓楼》）
- (12) 既然你有这么多优势，又何必在乎几首没有发表出来的诗稿呢？我看你的“优势”也没什么用嘛。

しかし、構文形式に特徴がないとはいえ、(4)や以下の(13)のような、一般“既然”文と解釈しにくい文も存在している。

- (13) 你既然永远不死，还需要保什么险呢？（语料：蔡威林《在动物寿命保险公司里》）

一方で、(14)と(15)のような、黄文龙1998の区別によると疑念を表す“既然”文に分類されるが、pに対する疑念または否定を表されていない例もある。

(14) **既然**还在咳嗽, 为什么却又来加班? (邢福义 2001 : p.368)

(15) **既然**群众需要, 为什么不能办起个饮食店? (语料:《中国青年报》)

そこで、①疑念を表す“既然”文であるか否かに対する判断は、なぜ文脈に影響されるか、②文脈に頼らない文の特徴は何かという二つの疑問が生じる。

II. 疑念を表す“既然”文と“因为”文の区別について

前述のように、黄文龙 1998では、疑念を表す“既然”文と“因为”文の区別について、①疑念を表す“既然”文におけるqの内容はpの内容と正反対であることまたは常識外れの内容が表されているが、“因为”文におけるqの内容は決してpの内容と正反対であることはない、②疑念を表す“既然”文のqは疑問文である例が多いが、“因为”文のqは疑問文形式である例が少なく、たとえ疑問文である場合も、肯定の語気を強調する役割を持つという2点を指摘されている。

しかし、実際の用例を考察してみると、(16)のように、qが疑問文であり、疑念を表す“因为”文が散見される。このような“因为”文と疑念を表す“既然”との区別も明らかにする必要がある。

(16) 难道他**因为**一时过分心软便要永远充当奴隶吗? (BCC: 帕斯捷尔纳克《日瓦戈医生》)

3. 疑念を表す“既然”文の特徴

本章では、一般“既然”文と比較しながら、疑念を表す“既然”文の特徴について論じたい。

第2章で述べたように、疑念を表す“既然”文の場合、pが陳述文であり、qが疑問文・命令文または陳述文の否定表現である例は圧倒的に多い。しかしqが陳述文の肯定表現である例は、少ないながらも存在している。今回、コーパスから収集した疑念を表す“既然”文100例の中で、qが疑問文、命令文、陳述文の否定表現と陳述文の肯定表現である用例数は、それぞれ62、19、15、4である。

それゆえ、疑念を表す“既然”文の特徴を考察するには、構文形式ではなく、

文の意味的表現に注目すべきだと考えられる。

以下で、p節とq節に分けて、疑念を表す“既然”文の意味的表現における特徴について、具体的に述べる。

3.1. p節における特徴

定義からみると、疑念を表す“既然”文と一般“既然”文の一番大きな違いは話し手のpに対する態度である。一般“既然”文では、話し手はpを事実または共有知識と認識する。一方、疑念を表す“既然”文では、話し手の目的はpに対する疑念または否定を表すことである。

この区別については、黄文龙 1998、邢福义 2001、徐阳春 2002などがすでに述べており、本論文もその考え方に同意するものである。

しかし、後述するが、以下の(17)と(18)のように、pが事実であり、話し手はpという事実を認めている例についても、本論文では疑念を表す“既然”文に属することを主張する。

(17) 有的顾客不免就要嚷嚷起来，追究她的服务态度，先是她，后来又必然有其他同事凑拢来，向那顾客理直气壮地申明：“这是我们的业务，你懂吗？不清点行吗？清点的时候就没必要理你！”有的顾客或者还要质问：“你们既然清点的时候不接待顾客，那干吗不到后头清点去？”（日中：《钟鼓楼》）

(18) 姑娘既不肯就此现身，小王只好强请了。（徐阳春 2002：p.126）

本節では、疑念を表す“既然”文を①pが事実であることに対する疑念及び反論を表す、②pが事実であることを認めるが、その妥当性に対する疑念及び反論を表すという2種類に分けて論じていきたい。

3.1.1. pの真実性に対する疑念及び反論

まず、pの真実性に対する疑念及び反論を表す例について述べる。

疑念を表す“既然”文のこの用法について、黄文龙 1998などがすでに指摘し、例を挙げている。(19)～(21)はその例である。

(19) 既然那么穷，为什么却天天有肉吃？（邢福义 2001：p.369）

- (20) 儿子又透露, 老师暗中保证——将会向除了区重点本区最好的一所中学推荐他。校方既然这么抬举这儿子, 关怀着儿子, 还去查什么分呢? (徐阳春 2002 : p.133)
- (21) “她为啥要挑唆高二林分家呢?” “她想进门当家把钥匙, 好拉着高二林‘发家致富’走歪门邪道。”“她既然打好了这样的如意算盘, 为啥跟二林搞着搞着对象凉了, 远了; 忽一下子又热了, 又近了呢?” (日中:《金光大道》)

以上の3例は、いずれも文脈や意味から判断すると、話し手がpの真实性に対する疑念または反論を表す目的で“既然”文を用いている。このような用法は先行研究ですでに述べられているので、ここでは言及しない。

3.1.2. pの妥当性に対する疑念及び反論

次に、pの妥当性に対する疑念及び反論を表す用法について考察する。(17)、(18)及び以下の(22)はこの用法に当てはまる。

- (22) 既然你们医院这么不肯帮忙, 咱们就熬着吧。(徐阳春 2002 : p.125)

まず、例(17)の文脈からみると、pである“你们清点的时候不接待顾客(あなたたちは勘定の時に客を応対しない)”は聞き手自身が認めていることであり、実際に発生した事実である。

次に、(22)も意味から、pである“你们医院这么不肯帮忙(あなたたち病院側はこんなに助けてくれない)”がすでに発生した事実による判断であることがわかる。

即ち、(17)と(22)のような疑念を表す“既然”文は、一般“既然”文と同様に、pの真实性が会話双方の共有知識(=文の前提)であるという特徴を持っている。しかし、qが疑問文または命令文である一般“既然”文に属す(23)、(24)と比較すると、話し手がpに対する態度と文の意味の違いを明らかにすることができる。

- (23) 既是全村的公路, 怎么咱们抬着棺材过一下都不行? (黄文龙 1998 : p.88)

- (24) 白老太太长叹了一口气道:“既然是叫你去, 你就去罢!” (徐阳春 2002 : p.129)

まず、qが疑問文である例(17)と(23)を比較した分析結果は、(25)と(26)のように示す。(25)と(26)のa・b・c 3例はそれぞれ、pの真実性、pの妥当性及びqの妥当性⁷⁾に対する疑念または否定を表すものである。(25)では、b例しか成立しないため、話し手の目的はpの真実性やqの妥当性でなく、pが妥当性に注目し、pが“不应该(するべきではない)”と強調するものである。一方で、(26)では、c例しか成立しないことから、話し手の目的はpの真実性または妥当性ではなく、qの妥当性に注目し、qが“应该/不应该(するべきまたはするべきではない)”を強調していることがわかる。

(25) 你们既然清点的时候不接待顾客，那干吗不到后头清点去？

- a. *你们没有在清点的时候不接待顾客。
- b. 你们不应该在清点的时候不接待顾客。
- c. *你们应该到后头清点去。

(26) 既是全村的公路，怎么咱们抬着棺材过一下都不行？

- a. *这里不是全村的公路。
- b. *这里不应该是全村的公路。
- c. 咱们可以抬着棺材过一下。

また、qが命令文である例(22)と(24)を比較した分析結果は、(27)、(28)のように示す。a・b・c 3例は同じく、それぞれpの真実性、pの妥当性及びqの妥当性に対する疑念または否定を表すものと設置され、(27)は(25)と同じく、b例のみが成立する。一方、aは(26)と同じく、c例のみが成立する。それゆえ、同じくpの真実性を認める“既然”文は、疑念を表す“既然”文と一般“既然”文の2種類に分けられる。前者はpの妥当性を注目している一方、後者はqの妥当性を強調しているという大きな区別がある。

(27) 既然你们医院这么不肯帮忙，咱们就熬着吧。

- a. *你们医院没有这么不肯帮忙。
- b. 你们医院不应该不肯帮忙。
- c. *咱们应该熬着。

(28) 既然是叫你去，你就去罢！

- a. *不是叫你去。
- b. *不应该叫你去。
- c. 你应该去。

ここまでみてきたことから、疑念を表す“既然”文におけるp節の特徴について、以下の結論を得た。

疑念を表す“既然”文はpに対する疑念及び反論を表す。その疑念または反論の対象は、pの真実性だけではない。pの妥当性は疑われるまたは反論される対象となることも可能である。

3.2. qにおける特徴

次に、q節における特徴を検討する。黄文龙 1998などは、疑念を表す“既然”文の特徴について「qはpと正反対の内容または常識外れな内容を表す」と指摘しているが、前述のように、同じ特徴を持つ一般“既然”文の例も散見される。今回収集したコーパスの例を観察すると、疑念を表す“既然”文におけるqは①反事実な推論を表すこと、②聞き手に不利な状況をもたらすことという2つの特徴も持つことが明らかになった。以下、具体的に述べる。

3.2.1. qは反事実な推論を表す

まず、qが反事実な推論を表す文、即ちqで表された内容は実際に発生していない文について考察する。その中で、①反事実な推論をそのまま述べる用例と②反事実な推論に対する疑問が述べられる用例の2種類に分けられ、前者はqが陳述文である例が多くみられ、後者はqが疑問文である例が多くみられる。(29)~(31)はその例である。

- (29) “我不知道！”想了想，道静率直地回答，并且惭愧地红了脸。“但是，您既然关心国家的事，那就应当知道啊！”卢嘉川笑笑说。(日中：青春之歌)
- (30) 既然读过大学，为什么却认不得几个字？(邢福义 2001：p.369)
- (31) “……他怎么忍受得了这种处境呢？他分明也很痛苦。”“他？”她冷笑了一声说。“他满意极了。”“既然一切都这么称心如意，我们大家为什么又要苦恼呢？”“只有他不。……”(BCC：列夫·托尔斯泰《安娜·卡列尼娜》)

まず、pとqの関係を確認すると、qが陳述文である(29)では、qである“应当知道(知っている必要がある)”とpである“关心国家的事(国のことを心配している)”は正反対でもなく、反常識でもない。一方、qが疑問文である(30)と(31)では、qの内容はpと正反対であることがわかる。例えば、(30)のpである“读过大学(大学に通ったことがある)”から推論されるQ⁸⁾の一つは“认识很多字(字がたくさん読める)”であるが、話し手の質問を表すqである“认不得几个字(字がほとんど読めない)”とは正反対である。即ち、qの内容がpの内容と正反対であることは、疑念を表す“既然”文になる必要条件ではない。

この3例の大きな共通点の一つは、qは発生した事実と正反対であり、話し手がその反事実性に基づく質問であることである。(29)を例として分析すると、qである“应当知道(知っている必要がある)”は文脈である“我[=听话者]不知道(私[=聞き手]が知らなかった)”から判断すると、反事実である。(30)でも、qである“认不得几个字(字がほとんど読めない)”は一見反事実ではないが、実は(32)のように、pから得られた結論は反事実な推論である“就应该认识很多字(たくさんの字が読めるはずだ)”(一重下線部で表す)であり、q(波線部で表す)はその推論に対する疑念である。

(32) 既然读过大学, 就应该认识很多字, 为什么却认不得几个字?

(33)のように、命題の対偶を取ると、(29)を(34)に変換し、(30)を(35)に変換することにより、pが偽であることを証明するのが、話し手の目的である。

(33) $p \rightarrow q = \neg q \rightarrow \neg p$

(34) 您既然关心国家的事, 就应该知道。既然您不知道, 说明不关心国家的事。

(35) 既然读过大学, 就应该认识很多字。既然认不得几个字, 说明没读过大学。

また、(30)のようなqが質問文の用例を(36)のようなqが陳述文の例に言い換えることもでき、qが事実でないことを知っている前提である場合、皮肉のニュアンスが込められている文になる。

(36) 既然读过大学, 那你什么字都认识啦。

しかし、邢福义 2001は“既然p, 却为什么q”のようなqの内容はpの推論と正反対である文をpに対する疑念とqに対する疑念の2種類があると指摘している。例えば、以下の(37)と(38)は(30)と(31)に構文上似ており、(39)のように、qがpから得られた反事実な推論に対する疑念として認識することもできるが、(40)のように対偶を取ることができず、意味から判断してもpでなくqに対する疑問であるため、疑念を表す“既然”文と認識しにくい。このような一般“既然”文と疑念“既然”文の区別について、次の3.2.2で分析する。

- (37) **既然**人家没惹你, 你为什么却总是惹人家? (邢福义 2001: p.368)
- (38) **既然**说谎不对, 为什么却老是说谎? (邢福义2001: p.368)
- (39) **既然**人家没惹你, 你就不应该惹人家, 为什么你却总是惹人家?
- (40) ***既然**人家没惹你, 你就不应该惹人家, **既然**你惹了人家, 就说明人家惹你了。

3.2.2. 聞き手に不利な状況をもたらす

3.2.1では、qが反事実な推論という疑念を表す“既然”文の特徴について考察したが、以下の疑問点が2点ある。

- ① 3.2.1の最後に挙げた(37)と(38)のような“既然p, 却为什么q”構文は、qがpから得られた反事実な推論に対する疑念を表すが、疑念を表す“既然”文と認識しにくい。
- ② 前掲(22)のような、pから得られた推論は反事実でない用例も存在する。

まず、一般“既然”文に属する(37)、(38)と疑念を表す“既然”文に属する(41)、(42)について、比較分析を行う。

- (41) 有的顾客不免就要嚷嚷起来, 追究她的服务态度, 先是她, 后来又必然有其他同事凑拢来, 向那顾客理直气壮地申明: “这是我们的业务, 你懂吗? 不清点行吗? 清点的时候就没必要理你!” 有的顾客或者还要质问: “你们**既然**清点的时候不接待顾客, 那干吗不到后头清点去?” 她和同事们照例是反击曰: “我们爱在哪儿清点就在哪儿清点, 你管得着吗?”…… (再録: 例(17))

- (42) **既然**对那儿如此情深, 又何必委屈到北京来呢? 用你的北京户口换个

陝西戸口还不容易吗？（日中：《插队的故事》）

一般“既然”文組と疑念を表す“既然”文組を比較すると、前者のqは話し手にとって聞き手に有利な提案を表す一方、後者のqは聞き手に不利な状況をもたらす提案を表すという大きな違いがある。

(41)と(42)を具体的に分析すると、(41)のqである“干吗不到后头清点去（中でやればいいじゃないか）”は、店員である聞き手が営業時間内にカウンターから去って店の中で勘定することはルール違反になるという一般常識を踏まえた上で提案したものである。(42)のqである“何必委屈到北京来呢（北京で我慢していることはない）”は、聞き手がすでに北京の戸籍を取得しており、北京の戸籍を取るには相当な苦勞が必要であり、一旦転出したら再び北京の戸籍を入手するのは困難であるなどの常識を知っている上で提案しているものである。

以上の2例では、qで表す提案内容は聞き手にとって不利であり、聞き手が望まないまたはできないことである。そのため、(43)と(44)のように、対偶をとることが可能である。

(43) 你们既然清点的时候不接待顾客，那么就人去后头清点。既然不去后头清点，你们就要在清点的时候接待顾客。

(44) 既然对那儿如此情深，就不必委屈到北京来。既然来了北京，就是对那儿没有如此情深。

即ち、(41)には、聞き手が“不能去后头清点（中でやれない）”ため、(43)のように、“要在清点的时候接待顾客（勘定の時も客を応対しないとイケない）”という話し手の主張に従わないとイケない。(42)でも、聞き手が北京の戸籍を放棄しない限り、自分が故郷をそこまで愛していないと認めざるを得ない状況になる。

一方、(37)と(38)のような一般“既然”文におけるqは、聞き手に不利な状況にもたらす内容は表していない。具体的に言うと、(37)におけるpから得られた推論である“你不应该去惹人家（君はあの人と喧嘩してはいけない）”と(38)におけるpから得られた推論である“你不应该说谎（嘘をついてはいけない）”は、話し手が聞き手に対する本当の提案であり、聞き手が従うと有利になると想定しているものである。それゆえ、(37)と(38)におけるqは、pから推論した結論が正

しいと認識した上で、その結論に従わない聞き手の行動に対する疑念である。

次に、(22)や(18)のような、pから得られた推論は反事実ではなく、qもその推論に対する疑念または反論ではない用例について分析する。今回収集したデータを考察した結果、このような用例はqが命令文または陳述文であるものに多くみられる。

(45) 既然你们医院这么不肯帮忙，咱们就熬着吧。(再録：例(22))

(46) 姑娘既不肯就此现身，小王只好强请了。(再録：例(18))

例えば、qが命令文である(22)では、qである“咱们就熬着吧（この対峙状態を続けよう）”はpから得られた推論“我们只能熬着（この対峙状態を続ける必要だ）”に基づく提案であり、疑いまたは反論ではない。

(47) 既然你们医院这么不肯帮忙，咱们就只能熬着。咱们就熬着吧。

このような用例の共通点も、聞き手に不利な状況をもたらす提案または宣言であると考えられる。例えば、(45)では、話し手（＝患者）は患者と対峙するのが病院側にとって名誉損害になることを想定した上で、“咱们就熬着吧（この対峙状態を続けよう）”と宣言し、病院側にとって明らかに不利な場面を作ろうとしている。

qが陳述文である(46)でも、話し手は誰でも強迫されたくないことを知っている上で、“小王只好强请了（私は無理やりをお願いするしかないよ）”と宣言し、聞き手に早く出てくるように迫っている。

ここで注意すべきなのは、(48)である。qである“你就去爱吧（どうぞ自由に余さんを愛してください）”は、聞き手の願望であり、聞き手にとって不利な状況ではないが、話し手が“爱老余（余さんを愛している）”は聞き手にとって不利な状況であると想定している。“你就去爱吧（どうぞ自由に余さんを愛してください）”という聞き手にとって不利な提案を通して、pである“你那老余这么可爱（余さんは愛されるべき人である）”を疑うまたは否定する態度を表す。即ち、相手の不利であるか否かの判断基準は事実や聞き手の判断ではなく、話し手の判断によることである。

(48) 既然你那老余这么可爱，你就去爱吧！我可不敢拆散你们。(日中：《青

春之歌》)

3.2.3. qによる理解のずれと曖昧性

3.2.1、3.2.2では、疑念を表す“既然”文におけるqの特徴を分析した。その結果、qが①反事実な推論を表すこと、②話し手にとって聞き手に不利な状況をもたらすことという2つの特徴がわかった。

この特徴からみると、qが反事実な推論を表すか否か、またはqが聞き手に不利な状況をもたらすか否かは、話し手の判断によるものであることがわかる。そのため、実際に発話の際には、(49)のような発話双方による理解のずれが発生する例も散見される。

(49) 吳碧波笑道：“我正要找他，你有什么事托他没有？我可以转告。”杨杏园道：“我和他常常见面，有事可以当面说，何必又请你转告。”吳碧波道：“总有吧？你想想看。”杨杏园道：“你这话我真不懂。”吳碧波道：“既然不懂就算了，以后可不要托我。”杨杏园始终没有领悟他的意思，答应不托他。吳碧波见他没有口风，也就算了。(BCC：张恨水《春明外史》)

(49)では、吳碧波(=話し手)は楊杏園(=聞き手)が今後自分に頼みたいことがあると想定し、qである“以后可不要托我(今後は私に頼まないで)”という楊杏園にとって不利な状況を作り、pに対する疑念または否定を表す“你不应该不懂我的话(私の意図を分からなければおかしい)”を表明し、楊杏園に“我其实懂你的话(あなたの意図がわかった)”を認めさせたい。一方、楊杏園にとって、今後は呉に頼めないことは不利な状況でないため、qを受け入れた。その理解のずれによって、呉にとっては、コミュニケーションの失敗例といえる。

(49)から、疑念を表す“既然”文における以下の特徴がわかる。

- ① 疑念を表す“既然”文が話し手と聞き手の理解のずれによって、一般“既然”文と認識される可能性がある。
- ② 疑念を表す“既然”文を使ってコミュニケーションを成功させる条件は、qが聞き手にとって不利な状況であることについて、会話双方の認識が一致することである。

例えば、以下の(50)と(51)は聞き手の理解によって、b1のように疑念を表す“既

然”文になる場合とb2のように一般“既然”文になる場合に分けることができる。

- (50) **既然**你这么慢, 就不要怪我咯! (徐阳春 2002 : p.139)

b1.好好好, 我快点儿走。b2.好, 不怪你, 你先走吧, 我慢慢走。

- (51) “……**既然**方丹不喜欢, 那我拿去看吧。”说着, 他向黎江挤挤眼睛, 伸手就把《牛虻》抢了过去。(日中:《轮椅上的梦》)

b1.好的, 你拿去吧。b2.谁说我/方丹不喜欢了!

具体的に分析すると、(50)のqである“不要怪我咯(私を責めないでよ)”と(51)のqである“那我拿去看吧(俺が読む)”という提案は、聞き手の理解によって、自分にとって不利な状況(b1)と不利ではない状況(b2)に分かれる。前者は疑念を表す“既然”文であり、後者は一般“既然”文である。

また、pとqの関係を観察すると、疑念を表す“既然”文を成立させる $p \rightarrow q$ は聞き手も認める関係でなければいけないことがわかる。例えば、(51)では、聞き手は“方丹不看(方丹は読まない) \rightarrow 其他人可以拿走(他の人は読むことができる)”という関係を認めないといけない。聞き手はこの関係を認めないと、以下の(52)のように、方丹に“喜欢这本书(この本が好きだ)”を認めさせるというpに反論する目的を達成することができず、疑念を表す“既然”文として成立しなくなる。(53)も同じである。qである“回火星去吧(火星に戻れ)”は聞き手にとって不利であるが、 $p \rightarrow q$ である“不吃香菜 \rightarrow 要回火星(パクチーを食べないなら火星に戻る必要がある)”という論理関係は反駁されやすいため、コミュニケーションを成功させることも難しい。

- (52) “……**既然**方丹不喜欢, 那我拿去看吧。”说着, 他向黎江挤挤眼睛, 伸手就把《牛虻》抢了过去。(再録:例(51))

b.就算我/方丹不喜欢, 那也是我/方丹的书, 你不可以拿走!

- (53) **既然**你们不爱香菜, 那你就回火星去吧, 地球不合适你们。(BCC)

b.凭什么我们不喜欢吃香菜就要回火星?

以上の分析から、疑念を表す“既然”文は $\neg p$ を焦点とし、qが聞き手にとって不利な状況であることと $p \rightarrow q$ を前提としていることがわかる。聞き手はqが自分にとって不利な状況と認識されないこと、または $p \rightarrow q$ を反駁すること

により、疑念を表す“既然”文を成立させないようにする可能性がある。疑念を表す“既然”文を使ってコミュニケーションを成功させるためには、①聞き手はqが自分にとって不利であると認識すること、②聞き手が $p \rightarrow q$ を納得することという二つの条件が必要となる。

4. “因为”文との対比

本章では、疑念を表す“既然”文と“因为”文の違いについて考察する。

前述のように、黄文龙 1998は、“因为”文と“既然”文の区別について、疑念を表す“既然”文の場合、qの内容はpの内容と正反対であること、または常識外れの内容であることがよく見られる一方、“因为”文の場合、qの内容はpの内容と正反対であることがない指摘している。(黄文龙1998:p.88)

しかし、3.1.2では、qで表される内容がpと正反対ではない疑念を表す“既然”文の用例を挙げた。また、次の(54)~(56)のような疑念を表す“因为”文も散見される。

- (54) “就因为一个错误你就被扔出来了？”费雅生气地说。(BCC：索菲·金塞拉《家政女王》)
- (55) “难道朋友之间因为不一致就自相残杀？”(BCC：卡尔·麦《老母塔之夜》)
- (56) 他欲哭无泪扪心自问：难道因为不敢正视自己的胆小怯弱就可以抽大烟吗？(BCC：王旭烽《茶人三部曲》)

例(54)を具体例として分析すると、pである“你犯了一个错误(あなたは一つの過失を犯した)”とqである“你被扔出来了(あなたは追い出された)”は共にすでに発生した事実であり、会話双方が共有している情報である。“费雅(=話し手)生气地说(費雅が怒りながら言った)”という文脈から、話し手はpである“犯了一个错误(一つの過失を犯した)”は事実として認める一方、qである“被扔出来了(追い出された)”という結果を導く理由になれないと認識し、“即使犯了一个错误也不应该被扔出来(一つの過失を犯しても、追い出されるべきではない)”という観点を表している。即ち、このような例は、肯定的な

語気を強調するのではなく、疑念を表す“既然”文と同じく q の内容は p から推論した結果とは正反対であり、疑念を表している文である。

しかし、このような例は、疑念を表す“既然”文と言い換えることができない。(57)と(58)はその例である。

(57) ***既然**一个错误, 你**就**被扔出来了?

(58) ***既然**不敢正视自己的胆小怯弱**就**可以抽大烟吗?

この理由については(59)～(62)に示すように、qが疑問文の“因为”文と疑念を表す“既然”文に関する以下の2点の違いで解釈することができる。

- ① 疑念を表す“既然”文の場合、pを疑う、または否定する一方、“因为”文の場合、pを疑うまたは否定する気持ちを表していない。
- ② 疑念を表す“既然”文の場合、p→qに対する疑念または否定を表していない一方、“因为”文の場合、p→qを疑う、または否定する。

(59) **既然**是真丝, 为什么看不到一条蚕儿呢? (语料: 李学健《同意接受订货》)

b1.这不是真丝。

b2.*是真丝, 不一定能看到蚕儿。

(60) (不服) **既然**它毫无益处, 又为什么世界上大多数的男子都喜欢这一套呢? (语料: 熊慧玲《残了的蔷薇》)

b1.它不是毫无益处。

b2.*毫无益处, 世界上大多数男子也不一定不喜欢。

(61) **就****因为**一个错误你**就**被扔出来了?

b1.*这不是一个错误。

b2.犯了一个错误, 不应该会被扔出来。

(62) 难道**因为**不敢正视自己的胆小怯弱**就**可以抽大烟吗?

b1.*他敢于正视自己的胆小怯弱。

b2.不敢正视自己的胆小怯弱, 不可以抽大烟。

5. まとめ

以上疑念を表す“既然”文の特徴を見てきた。第4章までの分析をまとめると、疑念を表す“既然”文のp節、q節における特徴はそれぞれ以下の通りである。

① p節の特徴

疑念を表す“既然”文のp節における一番大きな特徴は、定義通りにp節を疑うまたは否定することである。しかし、この表現で疑いたい或いは否定したいものは、p節で述べた事実の真実性に限らず、pの真実性を認めるうえでその内容の妥当性を疑うことでも可能である。

② q節の特徴

疑念を表す“既然”文のq節は、反事実な推論を表すものであるか、あるいは聞き手にとって不利な状況を想定した上で提出したものである。もちろん、聞き手の言葉や行動から明らかに反事実の結論を導くことも、聞き手に不利な状況として理解できるため、q節の特徴は話し手が聞き手にとって不利な状況を想定して提出したものとまとめることも可能である。

しかし、この「不利な状況」は話し手の主観的な判断であるため、聞き手との認識のずれが生じ、疑念を表す“既然”文の役割を果たせず、コミュニケーションがうまくいかないこともある。

なお、疑念を表す“因为”文との比較分析を行った結果、疑念を表す“既然”文はpを疑う一方、疑念を表す“因为”文は $p \rightarrow q$ を疑うことを明らかにした。

今回の分析では、疑念を表す“既然”文と“因为”文の区別のみ論じてきたが、(63)と(64)のように、交替が可能な場合もある。また、黄文龙 1998で指摘しているような“如果”文と“既然”文の交替性も含めて、中国語における因果複文全体の特徴の分析を今後の課題としていきたい。

(63) 只这“无所恨”真是怪，真是怪！……既无所恨，为什么要索索地抖，泪水直淌呢？（再録：例(5)）

(64) 正是因为有所恨，才会索索地抖，泪水直淌。

注

- 1) 後述するが、本研究では、pに対する疑念または否定を表し、“质疑性推断（疑念を表す推論）”と呼ばれている“既然”文を疑念を表す“既然”文と称する。
- 2) 徐阳春 2002、郭继愁 2008、钟小勇ほか 2013などがある。
- 3) 本論文の出典・用例及び略称について
 - (ア) 「日中対訳コーパス」(第一版) (2003、北京日本学研究中心) (以下、「日中」と略す)
 - (イ) 語料庫在線 (<http://corpus.zhonghuayuwen.org/>) (教育部语言文字应用研究所) (以下、「语料」と略す)
 - (ウ) BCC語料庫 (<http://bcc.blcu.edu.cn/>) (北京語言大学語言智能研究院) (以下、「BCC」と略す)
 - (エ) 先行研究から引用した例文：例文の後ろに出典を明記した。
 - (オ) 筆者による自作例：出典を記していない例文は筆者の作例である。
- 4) 邢福义 2001：pp.505-506。
- 5) 邢福义 2001：pp.369。
- 6) 徐阳春 2002：pp.132。
- 7) qは疑問文または命令文であるため、qの真実性について考察しない。
- 8) Qは、pから推論した結論の集合を表す。

参考文献

- 黄文龙1998 〈“既然p, 就q”句质疑〉《贵州师范大学学报》(社会科学版) 总第100期：pp.87-91
- 邢福义 2001 《汉语复句研究》商务印书馆 2001
- 徐阳春 2002 《现代汉语复句句式研究》中国社会科学出版社2002
- 郭继愁 2008 〈“因为所以”句和“既然那么”句的差异〉,《汉语学习》2008年6月第3期：pp.22-29
- 钟小勇、张霖 2013 〈“既然”句和“因为”句主观性差异探〉,《汉语学习》第4期：pp.35-40